

第4回中山町公共施設再配置計画策定審議会

日時 令和7年12月23日（火）

午後1時00分～

場所 中山町役場 大会議室

議 事 概 要

(1) 第3回中山町公共施設再配置計画策定審議会議事概要について

- ・前回審議会議事概要の修正等について、必要があれば令和8年1月9日（金）までに事務局へ

(2) 中山町公共施設再配置計画 基本構想（素案）について 資料1

【鎌田委員】22ページの「一の公共交通機関の乗降場から、徒歩（500m程度）」とあるが、これは長崎駅を想定しているのか。長崎駅の近くで公共施設のあるところといえば、中央公民館付近ということになるかと思う。中山町の特徴として、交通機関の結節点であるという部分は、全くその通りだが、一方で、駅を利用するという考えはあまりないのではないかとも思う。駅自体を現在の中央公民館近くに移設すれば、線路を挟んで両側にある公共施設も豊田地区、長崎地区の両方から利用しやすい施設になるのではないかと思うので、駅の移設についての記載も基本構想の中に入れた方が良いのではないか。

もう1点、14ページの(2)について、100,000 m³分の雨水貯留浸透施設とあるが、数字だけではイメージできない。単純に計算してみると、100m×100m＝1町歩で10mの高さの施設ということになるが、ちょっとイメージが沸かない。素人が考えても、この施設だけでかなりの費用がかかるのではないかと思う。それなら、砂防ダムではなく、水を貯められる構造の小規模なダムを山に複数箇所設置すれば、もしかしたらもっと費用が抑えられ、町全体を守れるような設備ができるのではないかと思った。

また、16ページの(5)については、そのようにしてもらいたいと思う。新しくできる公共施設で駅や山交バス、イオンモール天童の送迎バスなども接続できれば、利用が増えるのではないか。駅があれば、なぜなぜ大会議でも出ていた、高校生が町内に帰ってきてても集まる場がないということが解消で

きるのではないかと思った。

【事務局】 22 ページの定義については、イメージがつきやすいように 500m 歩けば使える施設ということで示している。この時の一の公共交通機関の乗降場は、特に駅だけではなくて、町営バスや山交バスの停留所でも駅でも、いずれかの場所から 500m ぐらいの中で歩いて使える施設群をイメージしている。

また、16 ページの(5)については、現在、町の公共交通は JR 左沢線、山交バス、町営バス、明治大郷から繋がっているスマイルグリーン号などがある。他に自家用車や自転車もあるが、現在、町にタクシーの営業所はない。このような状況の中で、様々な公共交通機関が 1 箇所集まり、乗り継ぎしやすく、連絡性を保つことができれば、公共交通の結節点としての機能も果たすことができ良いのではないかとということで盛り込んでいる。

約 100,000 m³の雨水貯留浸透施設というのは計画上求められている数字であり、今現在日本で最も大きい施設が奈良県にあるが、その施設は 5,000 m³となっている。地下 10m も掘るのは難しいということで、こちらでイメージしているのは、2~3m の深さのもの。例えば 2m の深さであれば、大体 50,000 m³で 100,000 m³になるが、必ずしも 1 箇所ということではなく、100,000 m³を目標として、ある程度の貯留施設が必要だということで盛り込んでいる。この雨水貯留浸透施設を作れるのは、川のそばというのが前提条件となっている。その場所としては、石子沢川または新堀川の沿線ということが想定されるということを示している。分かりづらいので、この辺も説明を追加したい。

【鎌田委員】 先ほど、豊田の山の方にダム等を設置して対応したらいいのではないかと提案したが、先ほどから公共用地に限るか否かについて議論になっており、公共用地に限るとすれば、新堀川沿いであれば長崎小学校、石子沢川沿いであれば商工会など、その付近が対象になってくると思う。雨水貯留浸透施設のためにそれらの既存の施設を潰すとなれば、結局、スクラップ&ビルドで町の財政にあまり負担をかけずにやろうということに逆行するのではないかと思った。地価は山林の方が断然安いので、総合発展計画の中ではそこら辺も踏まえて考えた方が町の財政上も有利ではないかと思う。

【事務局】現在、石子沢川流域水害対策計画の中では、田んぼダムや森林の保水能力向上というところが盛り込まれており、ダムによる貯水は盛り込まれていない。他の事例を見ると、公共施設に雨水貯留浸透施設を作るという時に、建物の下ではなく駐車場の下に作られているようであり、公共施設を整備する際には駐車場も整備することになるので、その地下に雨水貯留浸透施設を作るというイメージ。今回はまだそこまで具体的に示すことはできないが、単純に大雨の時に雨水を貯めるだけではなく、夏場冬場の熱交換とかそういう他の活用方法もあるのではないかと考えている。

【宗政アドバイザー】私は施設配置問題を研究しており、すごくざっくり言うと、今、皆さんが着席されている椅子の位置が、例えば自宅だとして、新たに消防署とか病院を建設しなければいけない場合に土地が全部余っていたとして、決して会長と副会長の家の間には建てないですね。近いからということではなく、例えば今ここにいる全員が最大の利益を得るところがどこかということ、おそらくこの会議室のど真ん中ぐらい、重心の位置に持つてくるのが1番適切であろうと。そういうことを研究している。今回気になったのは、先ほどの鎌田委員の意見と関連するが、16 ページ(7)の今年度ルールを決めて、来年度以降に規模や場所等を策定していくといった際に、例えばこの会議室の中でど真ん中が1番いいとなった時に、ここが市街化調整区域であつたらどうなるのか。そのギリギリ市街化区域のそばがいいのか、あるいは、そこがすごく災害的にはリスクが高い場所だつたらどうするのか、ということ色々考えていかなければいけないと思う。そうすると、この(7)の第2段落の「市街化区域内の公共用地に限定する」というのは、今この段階でルールとして決めてしまうのは少し早いのではないかなという気がする。例えばそこが市街化区域外であつたとしても、1番そこがいいのであれば、やはり検討すべきだろうと思う。それは来年度以降の規模と場所を策定する段階の審議でも間に合うのではないかな。

【事務局】ここは非常に重要なところになっていて、あまり限定しすぎると、比較することもできなくなってしまうので、おっしゃるとおりだと思っている。

委員の皆様は素案を送付した後も内部で議論を続けており、前回審議会でもいただいたご意見に答えられているか、記述が足りないのではないかなということを検討していた。そこで、追記が必要と思われるところがあった。

まず、12 ページの人口ビジョンで人口が 9,600 人に減っていくという内容の下に、この人口ビジョンの将来展望を規模算定の基準とするような記述を追加したいと考えている。

次に、13 ページ(1)の立地適正化計画の具現化というところの中には、距離的、時間的に町の中央である必要性の記述を追加したいと考えている。必ずしも真ん中というわけではないが、そのような考え方が選び方として評価が高いというような記述が必要ではないかと考えている。

14 ページ(2)の安全・安心のまちづくりについて、こちらは前回の審議会で皆様から多くご意見がでていたところなので、もう少し記述を増やした方がよいのではないかと考えている。絶対的に安全な施設というのはなかなかできにくいと思われるので、広域避難、受援能力の高さを活かすような施設整備について進めていきたいという考え方を示した方がよいのかについて、ご意見をいただきたい。

また、候補地の洪水浸水害、地震、土砂災害についての評価を行って場所を選定していくという方針、同じように安全性の評価を行うという方針、候補地が緊急輸送道路や主要道路に近い方がよいというような記述、また、田んぼダムの保全を優先するというような記述を文言として追加した方がよろしいのかについても伺いたい。

16 ページ(7)の多様な事業財源の確保については、エリアを制限してしまうような考え方については、この文言を削除してもよいのではないかと考えているが、そういった点についてご意見をいただきたい。

～追加資料配布～

今配布した追加資料は、基本構想の理念と方針を基に、来年度候補地を選定する際の採点表を想定して作ったもの。理念・方針の達成度が高い方が候補地として最適だということを採点表にした。あくまで現時点のイメージとしてご覧いただきたい。点数化し、理念・方針に 1 番近い場所が高い評価を受けるような方向で進めていきたいと考えている。宗政アドバイザーからご意見をいただいた部分については修正し、再度お示ししたい。次の審議会では、今回のご意見を反映したものをご覧いただく予定。

【富樫委員】今の修正案、宗政アドバイザーのご意見のところ、私も事前に目を通した中で 1 番、気になったのは(7)の下 の 2 行だった。重複するかもしれないが、今回の再配置計画により役場の位置を変える可能性もあり、最適な位置に役場を配置するっていうのがまず前提だと思う。それなのに、最初か

ら「新たな土地は買わない」と、入り口論でこのような書きぶりにしてしまうと、最適配置計画の自由度がなくなるし、最適配置の足かせになるのではないか。スピード感も大事だが、スピード感を重視するあまり、最適配置が二の次になってしまい、最適な場所を選びたくても選べなくなってしまうのではないかと思ったので、この2行は慎重に対応すべき。

立地適正化計画が町と県との繋がりに関連する業務になる。今の町の立地適正化計画は早い時期に策定されており、策定後に防災指針を含めた法改正があったため、防災指針が反映されてない。今年度、来年度で見直しが予定されているということなので、この部分に関しては、居住誘導区域内の人口密度をキープしながら立地適正化計画の中で防災をどういう風に位置付けていくのかというところがすごくポイントになってくるのかなと感じているところ。

来年度の話になると思うが、16 ページ(5)の公共交通の結節点の機能を最大限に付加するという事で、前の審議会でも長井市の例を挙げて、駅は重要だということを言及させていただいた。なぜなぜ大会議の中でも駅が使いづらいとか、利用しづらいというような意見が出ていたと思う。駅を利用しづらいというのはちょっと違う目で見れば、駅の位置がそもそもそこで良いのかというところもあるのかもしれないので、役場とか中央公民館の位置というのはしっかり最適配置をした上で、今ある長崎駅のところに役場を持っていけないのであれば、役場のところに駅を動かすくらいの勢いだって、今後 100 年くらいのまちづくりを考えた上では、いろんな制約を取っ払って最適な方向で考えられるような形で基本構想をまとめるということが必要なのではないかと感じた。

【事務局】駅を動かすぐらいのまちづくりの大規模なグランドデザインになるということは我々としても感じており、実際駅自体を動かすとか、そういうことによって、公共交通の利便性が上がるとすると、請願駅ということで、町の方から JR にお願いして動かすということももちろん政策的にはあり得るのかなと考えている。

スピード感と最適配置とのバランスについては、最適配置というのはもちろん重要。ご存知の通り、災害が多い町で、安全性の高いところに土地を求めるということも重要だと思う。それと合わせて、スピード感については、我々の勉強不足か分からないが、正しいかどうか分からないので、もしご存知の方がいればご助言いただきたいが、いわゆる市街化調整区域と言われる

ところですね。

市街化調整区域の農地について、優良農地が多く、農業振興地域でもあり、農地法の網かけもある。そういったところに新しく公共施設を建設することになった場合、手続きを始めてから事業化するまで 10 年程度かかると想定している。スピード感と最適化とのバランスがとれればと考えているので、より良い進め方があれば、是非皆様からのご意見をいただきたい。

【鎌田委員】スピード感を持って進めるといえば、事務局が言うように、既存の公共用地を優先するしかないのかなと思う。市街化調整区域まで含めて考えると、かなり時間がかかってしまうのではないか。

【事務局】鎌田委員からあったとおり、スピードか最適化かというところで、町民の皆様から納得性高く合意いただきたいので、何か所か候補地を挙げ、採点をして、おそらくこの審議会の中でその評価についてご意見をいただき、順位付けをしたものを町民の皆様にお示ししていくという形になろうかと思うので、そういった方法でよろしいかということについてもご意見をいただきたい。

【濱委員】採点表については良いと思うが、結局のところ、傾斜配点によって変わるため、納得感のあるものを作るという場合には、そこが問題になってくるのかなと思っている。おそらく、全ての項目で 1 位になるようなところはないのではないかなと思う。

【事務局】採点表については、あくまで一例としてご覧いただきたい。傾斜配分は、早くて安くて楽に作れるということに関して評価が高いというイメージかなと現時点では考えていた。例えば、土地を新たに購入する必要がない場合は評価が高いとか、安全性が高いところは評価が高いとか、様々考えられる。お金の面では、財源を活用しやすいとか、現在取り組んでいる特定都市河川石子沢川の対策事業とか、国の支援が入りやすいという部分も非常に重要。点数配分も含めて、設定の段階で改めて皆様からご意見をいただく予定。

【渡部委員】採点表については、基準がないと分かりづらいので、一度点数を入れてみるなどして、合理的な配分を見つけることが大事だと、今の質疑応

答を受けて感じた。また、先ほどから議論になっている 16 ページ(7)については、私も縛りすぎは良くないと思う。その他、事務局から提案があった追加記述については、それも大事なことだと思ったので賛同する。

基本構想として、今まで議論に出てきたことは盛り込まれていると感じたが、分かりづらいところがいくつかある。例えば 3 ページのケーススタディ成果と書かれているが、これは防災に関するケーススタディ、特に水の話だったと思うが、この記載内容では何のケーススタディかよくわからないと思うので、わかるように書いた方が良く思う。5～6 ページだけが「である調」になっている。7 ページの経過には、これまで議論してきたものが書かれていると思うが、それぞれ年度を入れた方が経過としては良いのかなと思う。9～10 ページの長寿命化対策の○×についての説明が先ほどあったが、その説明についての記載があった方がいいのではないかと。10 ページ下の文章を 9 ページ上に持って行った方が分かりやすいのではないかと思う。13～14 ページの方針については、立地適正化計画の言葉をそのまま引用したということだが、災害と共生というのはちょっと引っかかる。というのは、災害はない方がいいものなので、「しなやかに災害に対応し」や、災害を起こす自然現象を自然とみなして「しなやかに自然と共生し」のように言い換えられるのではないかと。理念の枠内の 1～3 の順番も気になっていて、最初に住民の定住意向や職員の意見があるが、2～3 が上に上がって、3 番目にそういう皆さんの意向を持ってくるというやり方もあるのではなにか。それは基本方針(1)～(9)の順番でも、ワークショップの話が最後にあるので、その方が順番的にリンクするのではないかと思う。16 ページ(5)の枠内にある利便性の良い場所の設置とロータリーを整備というのが分かりづらい。何のロータリーかとか、どう利便性が高いのかが分かりづらいと思った。基本的には、今までのことが盛り込まれていたと思うので、その辺ちょっと整理いただければと思う。

【鈴木委員】16 ページについては、私も異論はない。14 ページ(2)の今回追加の提案があった部分は、前回の審議会で安全・安心というのがすごく大事だという話がでていたので、追記に対しても異論はない。2 ページの洪水想定のところの修正をお願いしたい。最上川水系流域治水プロジェクト 2.0 という文言があるが、これは気候変動に考慮した水害が起きた時にどのくらい浸水するかで、浸水した時にどういうメニューを貼り付けてやるかというのを 30 年という長期的に示したもので、大きな方針みたいなもの。一方、後半の令和 13 年度完了というのは、おそらく、最上川水系河川整備計画のことを記

載していると思われるので、この記載は「最上川水系河川整備計画完了時、令和13年度の評価」というところが適正な表現かと思うので、修正をしてほしい。3～4ページに防災分野の国が関連する計画として、最上川水系流域治水プロジェクト2.0と石子沢川流域水害対策計画の記載があるが、先ほどの最上川水系河川整備計画が最も大きな法律で決まっている計画なので、1番上に追加し、昨年策定した流域水害対策計画、流域治水プロジェクト2.0という順番が良いかと思う。先ほどあったケーススタディは計画ではないので、それを参考にしたということで、適正な表現に直すべき。資料編28ページにケーススタディ成果は必要かということも含めて少し検討していただければいいかなと思う。

【太田委員】計画の中身が素晴らしく、いろんなことに気を配っていただいているなということで、非常にありがたく思っている。一般町民から見ると、いろんな採点で決めてもらうのは良いと思う。新しい施設を最も利用するであろう今の未成年の子どもたちから、将来、中山町は便利でいいよね、山形市にもアクセス楽だよねという意見がたくさん出てこない、どんどん人がいなくなってしまう。今中山町にいる人たちは不便だと思いつつも、中山町が好きだから我慢して住んでいる。その人たちがいいと感じるのではなく、今意見がものすごく少ない大学生、高校生、中学生、小学生の中で中山町いいね！という評価が得られれば、人口減少を抑えることができるのではないかなと思う。子どもたちの希望も盛り込んだ内容にしてほしい。

【高澤委員長】それでは、事務局から提案のあった内容については追記し、16ページ(7)を修正すること、また、採点表に関しては合理的に判断できるように、少し詰めた内容にすることなどにご賛同いただけたということで、次の審議会でもまた検討するということにしたいと思う。

(3) その他

【富樫委員】先日12月19日に国交省がプレスリリースした、令和の都市(まち)リノベーション推進に向けた取り組みについて、情報提供する。リノベーションの全国推進運動として、都市計画区域を有する地方公共団体を中心に訪問し、立地適正化計画や都市計画の見直しについての意見交換、技術的な指導をしてくれるというものなので、活用を検討してみてはどうか。

【事務局】町建設課からも情報共有されており、非常に興味深く見ていたところ。活用について検討したい。